

次第に花茎の数を減少させている

毛木場のベニバナイチヤクソウ

2020年6月20日、長野県の峰の原高原で、ベニバナイチヤクソウの撮影に成功した。6月22日に自宅に帰って、ネットで画像検索をしていると、かねてよりの懸案であった毛木平のベニバナイチヤクソウのピンポイント情報が書き込まれているのを発見する。当初、登山口から十文字峠に向かって登り、かなりの距離を歩くと思っていた。ピンポイントの情報がないので、なかなか向えなかつたのである。ところが、峠ではなく毛木場という駐車場近くに群生地が存在するという。用事があって可能なのは三日後。峰の原高原と標高は同じ1400m付近なので、少し遅い程度で、撮影は可能

(長野県南佐久郡川上村大字秋山)

と推察して向ったのである。心配されるのは、やはり鹿の食害である。

現場に向うと、驚いた事にこの谷は高原野菜の有名な産地で、谷の奥深くまで畑が続いている珍しい場所であった。よって、登山口周辺も人気がし、鹿の食害から免れていたのである。しかし、2010年頃の画像と比較すると、花茎の密度が半減していると感じた。これは、やはり近年の温暖化によって、夏場の極端な高温による影響ではないかと推察。まだ鹿の食害から逃れているものの、刻々と、絶滅の日が近づいていると感じさせられたのである。



毛木場のベニバナイチヤクソウ

